

イスラエル現地レポート

シャローム。いつもイスラエルのために祈って下さっていることを心から感謝しています。毎日のように目まぐるしく情勢は変わっていきませんが、今現在のイスラエルの状況をお伝えしたいと思います。

まず、今イスラエルで一番に取り上げられているニュースは、イランがイスラエル・ゴラン高原へミサイル攻撃をしてきたことから、イランがレバノンのイスラム教シーア派組織ヒズボラに武器を流していることがわかり、それに対してイスラエルは、レバノンからシリアへ武器を流しているシリアの空港を攻撃していることです。これに対してイランも対抗する姿勢を見せているようです。現在はイスラエル北部が緊迫しています。北部に住む方々においては非常に困難な状況が許されている状態です。

そんな中、最近イスラエルでは嬉しいニュースがありました。それは、ヨーロッパで毎年行われているユーロヴィジョンという歌謡コンテストでイスラエルが20年ぶりに優勝したことです。イスラエルの歌手として参加したネタ・バルジライさんは日本が大好きだそうで、今回のユーロヴィジョンでは日本を思わせるようなファッションで登場しました。イスラエルが優勝し、一気にイスラエルは盛り上がり、さらに日本に興味を持つ人達も一気に増えたような気がします。この優勝にて2019年は優勝した国イスラエルでユーロヴィジョンが行われるため、来年の会場場所となるエルサレムはあらゆる場所で設備工事が始まりました。

また、大注目していたアメリカ大使館が、とうとうエルサレムに移転したことにより、今まであやふやにされていた、エルサレムが首都であるということが、はっきり証明されました。その後、現在では2つの国の大使館がエルサレムへ移転することを発表し、多くの反響を呼んでいます。このアメリカ大使館の移転においてイスラエル市民、とくに右派はとても喜んでいますが、左派は今後のイスラエルを考えるとあまり良い事ではないと思っている方々も多くいるようです。そしてやはり一番不満に思っているのはパレスチナ側です。パレスチナ自治政府のマフムード・アッバス議長の報道官であるナビル・アブ・ルデイナ氏は、「米政府は和平プロセスの役割を自ら放棄し、世界とパレスチナ国民、またアラブ諸国、イスラム諸国を侮辱するとともに、扇動と情勢不安をもたらした」と批判したそうです。ガザではイスラエルに対する非難のデモがあり、多くの死傷者、負傷者がでました。さらにアメリカ大使館移転後、すぐにパレスチナ自治区ではイスラエルがパレスチナを占領した日として「ナクバの日(怒りの日)」があり、ガザ、そしてハイファで行われたデモで、さらなる多くの死傷者、負傷者がでました。エルサレムではアラブ人、左派のユダヤ人によるデモも行われたようですが、それほど大きな衝突はなかったようです。このニュースを見ていた時、聖書には終わりの時代、アメリカは登場しませんが、やはりアメリカのトランプ大統領が演説で「永続的な和平合意を促すため全力を尽くし続ける」と語っていましたが、どんどん和平から遠のいているのを感じました。今後とも和平合意は終わりの時代の大きなポイントなので目を覚まして動きを見ていかなければいけないなと思わされました。

また、この状況から今まで親交があったトルコとイスラエルの関係がまた悪化しました。トルコ



のエルドアン大統領はプロパレスチナ(親パレスチナ)を宣言している方ですが、アメリカ大使館移転をきっかけとして、現在、ガザで多くの死傷者が出たため、怒りを覚えた大統領はイスラエルとアメリカの大使、大使館関係者をトルコから追い出しました。現在のトルコの経済状況は悪化しており、トルコの状況もあまり思わしくありませんが、大統領選挙が近づいているため、イスラエル側としては大統領選挙の後のトルコの様子をうかがっている感じです。

このようなアップダウンのある現在、イスラム教ではラマダン(一か月の断食)が始まっています。知り合いのビジネスマンがパレスチナ自治区でビジネスを始めているようですが、話を聞くとところによると、パレスチナ自治区内でもエリコやラマラ、ナブラスにおいてはそれほど緊迫した感じはしないと話してくれました。どうやらイスラム教徒もこのような状況の中でも、出来るだけラマダンを楽しもうとしているようです。しかし、現在のイスラエルの状況に不満を覚えている人々もいるので、突発的なテロが起こる予想もされているため、まだまだ日々注意を払い、祈り続ける必要はあります。

現在私はイスラエルのテルアビブから北東側に住んでいますが、このように毎日のようにいろいろな状況が起こっている中、実際に生活している中では、それほど緊迫した様子は感じていません。また、テルアビブ、そして毎週礼拝をするために行くエルサレムでは、兵士の警備が増えたということもなく、今までとあまり変わった感じがしていません。もちろん毎日のように状況が変わるイスラエルですので、絶えず目を覚まして祈っていく必要はありますが、今回のイスラエル情勢の中で個人的に感じたことは、パレスチナ自治区ガザと他のパレスチナ自治区(ヨルダン川西岸)、そしてイスラエル内のイスラム教の方々の間に、温度差があるように感じました。実際にガザでは毎日のように死傷者、負傷者がでているのが現状です。しかし、同じパレスチナ自治区のイスラム教徒の方々でも穏やかにラマダンを楽しみ平和を求めている方々がいるのも事実です。今回、イスラエルで大きな注目となったアメリカ大使館の移転においては、東エルサレムでは大きな規模のデモが行われ、大きな衝突になるのではないかと思われていたのですが、実際デモは行われましたが、思ったほど大きなデモ、大きな衝突にはなりません。また、ガザやハイファでのデモにおいてとても悲しい状況が許されましたが、それに対してイスラエル側に怒りを抱く人達とハマスの政策に怒りを抱く人達の行動が分かれているように感じました。というのも、最近のニュースによると、パレスチナ人男性がハマスのやり方に怒り、焼身自殺未遂に至った事件がありました。この事件からも、やはり争いを求めず穏やかに過ごしたいと思うアラブ人、イスラエル内のアラブ人にとってみれば、ちゃんと家があり、仕事があり落ち着いた生活を投げ捨ててまでパレスチナ自治区には戻りたくないという方々がいるのです。このようにイスラエルのイスラム教の動きにおいても今までとはちょっと違う動きになっているため、今後もしっかりとイスラエルの中にある小さな動きにも注意深く、そして正しくとらえていけるようにお祈りしています。

今回の劇的なイスラエルの変化もそうですが、今後も引き続きイスラエルに住んでいる中で、実際に見て、感じて、見極めながらイスラエルの平和のためにとりなし続けていきたいと切に思っています。シャローム。